

# 陳 情 文 書 表

(産業観光局)

受 理 番 号	2 3 4	受 理 年 月 日	令 和 3 年 5 月 12 日
件 名	家族経営の零細製造業を支える支援		
要 旨	<p>私共は、零細のおかき、あられの製造業者である。昭和30年代に個人商店として先代の主人が父親と製造業を始めて、今年で60数年になる。京都は、こんな小さな企業に支えられているのではないだろうか。</p> <p>数年前から既に経営は厳しく、パート従業員の時給引上げにも悲鳴を上げるばかりである。製造業なので、餅米の原料から製品が完成するまでは、皆さんの手を借りなければ成り立たない。さらに、数年前から消費税が10パーセントに増税となった。本来なら、税対策として毎月積立貯金をしなければならないのだが、その余裕もなく、私の個人年金を取り崩して支払ってきた。今年は特に厳しいことから、納税猶予、分割納付を相談している。そのうえに、1年前からコロナの影響で、観光地への委託販売や季節行事の売上げが減少し、三重苦の今日である。コロナの支援策はいくらか利用できたが、全く不十分である。銀行からの融資は、返済を止めてもらっているのがせいぜいで、返済のことを考えれば今以上の融資を受けるなど到底できない。</p> <p>だからといって、原料の質を下げることはできない。お客様の舌は敏感である。今日まで商売を続けて来られたのも、私共のおかき、あられを愛していただいているお客様のおかげである。おかき、あられは嗜好品である。しかし、日本の国は大昔から米を主食とし、米を原料とするおかき、あられは生活と切り離せないものになっている。私共、製造業者もお客様たちの日常生活において、少しでも喜んでいただき、ほっとした時間を持っていただくことが社会貢献にもつながる思いで頑張っている。</p> <p>昭和18年生まれの私の後には、娘や孫も頑張っている。消費税の納税や人件費の捻出などに悲鳴を上げる事態である。子や孫にこの店を引き継がせることができるように、何とぞ、助けていただきたい。よろしく願います。</p> <p>ついでに、家族経営の零細製造業を支える支援策を求める。</p>		
陳 情 者			
回付委員会	産業交通水道委員会		